



鬼は～外!
福は～内!



3月号の主な掲載記事

- ☑特集
地域防災の要 涌谷町消防団 P. 2
- ☑箕岳白山祭フォトレポート P.11
- ☑純米大吟醸「稀世」予約受付 P.15
- ☑転出される際の届け出 P.16

涌谷町消防団

自らの地域は自ら守る。

自らが暮らす地域内で発生する火災や台風・豪雨などの自然災害から、住民の生命と財産を守るために活動する地域防災組織が消防団です。

広報わくや発行800号を記念し、現在の涌谷町の誕生とともに発足された「地域防災の要」の涌谷町消防団について特集します。

この写真は、広報わくや第2号(昭和30年9月15日発行)掲載の発団式のものです。

消

防団は、地域防災の要です。「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、他に本業を持ちながら消防防災活動に従事する市町村の非常備の消防機関で、

団員は権限と責任を持つ非常勤特別職の地方公務員です。

涌谷町消防団の歴史は古く、昭和30年に旧涌谷町と旧笠岳村の合併によって発足。発足時は、涌谷・笠岳2支団29分団で構成され、団員数は786人でした。

当時の齋藤望町長は、発団式の辞で「涌谷、笠岳二支団より成る二十九分団を有する涌谷町消防団は精鋭なる団員のもと地域地形に応じた近代的優秀なる装備と練達した技術をもって、機材を高度に活用し二万五千町民の生命財産を水火災その他被害より、安泰に護り、ひいては四隣に及ぶまで

その任を完う出来るものと信ずる(広報わくや第2号・昭和30年9月15日号掲載)」と述べ、絶大な信頼を寄せていました。

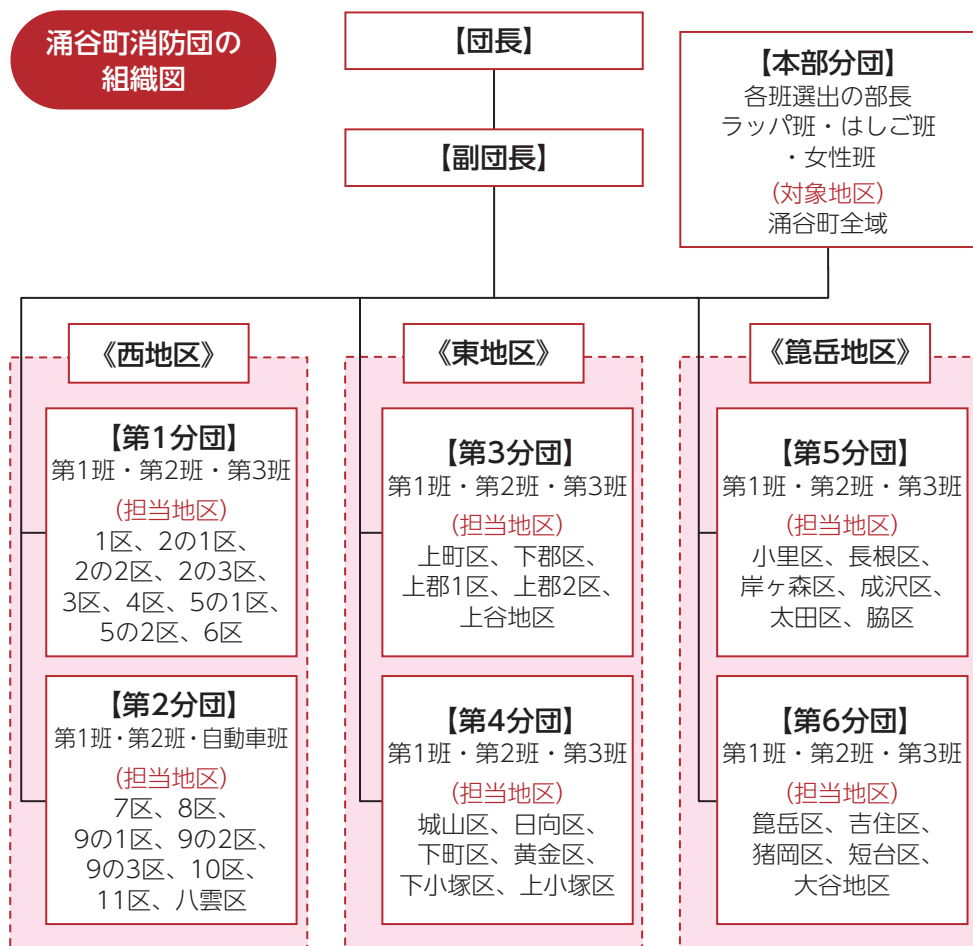
現在の涌谷町消防団は、1支団7分団で構成され、団員数は263人(男性255人・女性8人)です。近年は、高齢となった団員の退団が多い一方で、20代・30代の若手の新規入団が少なく、涌谷町消防団条例に定められている団員の定数280人を下回る状況が続いています。

しかしながら、それでも涌谷町消防団は、地域防災の要として、町内で発生する火災現場での消火活動をはじめ、近年激甚化が深刻な台風や豪雨による水害や行方不明者の捜索など、町民の生命と財産を守るため、昼夜を問わずに多角的に活躍し続けています。

最前線で町の安全を守る――



浦谷町消防団の組織図



浦 谷町消防団は、団長を筆頭にした本部分団に加え、西地区・東地区・麓岳地区の3地区ごとに2分団ずつ計7分団が配備されています。そして、各分団は3班に分かれ、団員が担当する地

域の火災・災害現場へ迅速に出動できる体制が敷かれています。なお、本部分団は、各分団から選出された部長で構成される他、ラップ班・はしご班・女性班も本部分団に含まれています。



火災や災害などの被害を抑えるため、消防団は、なくてはならない存在。

防火啓発から始まる消防団活動
消防団というと火災消火のイメージが強いですが、防火査察などの地道な啓発活動も、地域に根差した消防団だからできる活動です。地域で異なりますが、毎月複数回、一戸一戸を回り、火災につながりそうな危険がないかを確認しています。以前は家の中に入って確認していましたが、現在は玄関先での聞き取りが中心です。それでも、消防団が家に来たというだけで住民の防火意識が高まり、火災予防につながっています。



浦谷町消防団
たむらとしゆき
田村敏幸団長

昭和53年入団。令和3年4月から団長を務める。

団員数の充足が喫緊の課題

「自らの地域は自ら守る」ために存在するのが、消防団です。しかし、現状、いずれの班も定員を満たしていません。火災時は他の班からの応援で乗り切れますが、自然災害はそうはいきません。自らの地域を守るのが精一杯で、他の地域を応援できなければ、生命と財産を守り切れなくなる地域も出てきかねません。

昔と比べて勤め人が多く、生活様式も変化しているため、休日や自宅にいる時などで、協力できる範囲での団員活動で構わないと、時代に合わせた勧誘を、地域の若い世代にしています。

すべては地域の生命と財産を守るため。団員を募りながら、火災予防のための査察や迅速な消火ができるよう、操法や中継訓練などに取り組み、備えていきます。

涌谷町消防団 活動現場レポート

Reporting



火災や水害が発生すれば、昼夜を問わずに現場に向かい活動する涌谷町消防団。その消防団が活躍する現場の一部を写真とともに紹介します。

①

一迅速に一消火活動



②

町 内で火災が発生した場合、火災現場に近い班を中心に、火災の規模に応じた体制で消防ポンプ車を出動させ、消火活動や人命救助にあたります。消防署が現場に到着後も、円滑な消火活動ができるよう、消防署員と連携します。なお、火災現場で円滑な消火活動が行えるよう、ポンプ車の設備機器の操法訓練や性能検査を各班ごとに実施しています。近隣市町で大火が発生した場合は、協定に基づき、消火活動に派遣されます。



④ ③



消防団員の待遇など

入団資格は町内在住で18歳以上であれば、男女問わずに募集しています。

●**報酬**：階級ごとに年額で定めている他、訓練や災害時の出動した際に費用弁償があります。

●**保障**：活動中のけがや死亡した場合の補償があります。

●**制服**：活動服などの必要物品はすべて貸与します。

〔写真解説〕
〔消火活動〕①出初式で行われるポンプ車の一斉放水②息を合わせて最前線で消火にあたる③有事に備えて行う操法訓練。ポンプの操作やホースの中継なども行う④消防署員の円滑な消火活動のために送水支援
〔水防活動〕⑤令和元年東日本台風によって越水寸前の出来川で人知れず土のうを積む⑥関東・東北豪雨(平成27年)で江合川は過去最高水位となり発生した越水。越水による堤防の侵食を最小限にするために施したシート張り工法⑦「月の輪」工法を有事に備え訓練
〔はしご乗り・ラップ班〕⑧涌谷町消防団のラップ班。出初式や演習などの際に、ラップを吹鳴⑨はしご班によるはしご乗り。消防団の出初式をはじめ、産業祭などの町民の皆さんが集まる場で演技を披露し、防火広報や団員募集を実施

—越水・決壊を防げ—水防活動



⑤
⑥



台

風をはじめとした豪雨の際に、江合川や出来川などの涌谷町内を流れる河川が氾濫しそうな場合にも、消防団は出動します。堤防を越水しそうな場合には、堤防の上に土のうを積み、越水量を最小限に食い止めつつ、水が流れ出る先の堤防にシートを敷いて堤防の浸食を防ぐなどの処置を施します。

さらに、堤防内を河川の水が通り抜けてしまっている場合は、水防工法「月の輪」を施し、通水している穴の拡大と堤防の決壊を防ぎます。



⑦

—多才—はしご班とラッパ班



⑧

涌

谷町消防団にはラッパ班やはしご班もあります。

ラッパ班は、消防団主催の行事などで吹鳴し、団員に行動の指示を出す役割を担っています。

はしご班は、出初式でのはしご乗り演技披露の他、涌谷町内で開催される各種イベントでの防火啓発や団員募集広報などを目的に活動しています。大崎管内で唯一涌谷町消防団だけがはしご班を有し、はしご乗りの練習場を併設する第4分団第2班の消防ポンプ車の詰め所を拠点に活動しています。



⑨

涌谷町消防団

消防団員の今

Interview

涌谷町消防団で活躍する若手団員の皆さんに団員になったきっかけや体験などを伺ったところ、これまでのイメージにはなかった消防団と日常生活の両立といったライフスタイルに合わせた消防団活動が見えてきました。

第1分団第3班団員

わたなべけんた
渡辺健太さん

平成24年12月入団・33歳



普段は、株式会社日進エンジニアリング(大和町)に勤務。

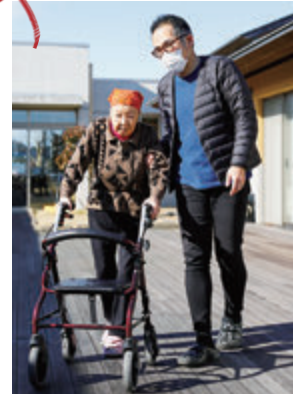
Change!!



第4分団第3班団員

なかむら おさむ
中村 治さん

平成23年2月入団・42歳



普段は、社会福祉法人涌谷町社会福祉協議会に勤務。

Change!!



地域との交流のきっかけに

私が暮らす地域を担当する班長・副班長から声をかけられたことがきっかけとなり、何か役に立てればと入団しました。

サイレンが聞こえたら現場を確認して仕事に影響がない夜間はなるべく出動するようにし、仕事と消防団を両立させています。その他に、年に一度のかまど検査やポンプ性能検査に出ています。

班内では一番の若手なので、現場の指示に従い、勉強しながらできることに携わっています。

また、大崎地区操法大会に、涌谷町代表チームの一番員として出場したこともあります。

現場経験が浅いので、やりがいを感じるのはいくらです。地域の皆さんに、大人になった自分を知ってもらいつつ、改めて交流が生まれ、ご苦労様と声をかけられるのがうれしいです。

社会福祉協議会の仕事と両立

12年程前、町内で引っ越しをした際に、引っ越し先の地域で知り合いがいなかったため、地域に少しでも早く馴染んで、顔を覚えてもらうために入団しました。

班内の理解があり、水害時は、施設入所者の避難を優先させていただいています。他に、防火広報や巡回、火災現場への出動に従事しています。

また、職場が防災無線に近いので、防災無線が鳴った際は、すぐに本部に電話して詳細を確認し、必要があれば班員に出動要請を伝達する連絡員の役割もしています。

地域を巡回する際に、訪問先で応対された高齢者に異変を感じ、行政につないだことがあります。結果的には、地域の見守りにもつながり、安全な地域づくりに貢献できたと思います。

消防団は、地域を守る勇者として
憧れられるべき存在。



消防団は地域防災のリーダー

遠田消防署と消防団は、町民の安全安心を守る使命のため、火災や水害、防火啓発などあらゆる場面で連携しています。

消防団は、地域密着性と要員動員力、即時対応力を兼ね備えており、地域防災の要です。東日本大震災や関東・東北豪雨、令和元年東日本台風などの大規模災害によって広域消防のみで対応することとは、非常に厳しいことが明白になったため、毎年のように発生する激甚化した災害への対応として消防団への期待はますます高まっています。歴代の団長の指揮の下、

各分団が地域に密着して防災活動をされてきたことが、今の町民の皆さんの安心につながっているのではないのでしょうか。

消防団員は、それぞれが仕事をもちながらも、夜通しの火災現場の警戒などに従事する姿に頭が下がります。

地域防災力の中核として大きな力を維持するため、消防団を取り巻く課題の一つである団員数の減少に歯止めをかけ、入団した若い世代の団員には、地域の防災リーダーとして活躍してほしいと願います。そして、その姿が子どもたちの憧れとなり、地域防災に関心を持ち、未来の地域防災の担い手となれば最高です。

コロナ禍が一日も早く終息し、町民の安全と安心を守る重要な役割を共に達成するため、互いに汗を流して錬成する場が早く戻ってくることを願うばかりです。



遠田消防署

ひなたひろあき
日向裕昭 署長

令和3年4月から遠田消防署署長に着任。

振

り返れば、いつもそこに消防団がいました。平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災。涌谷町でも震度6強を観測し、建物の倒壊や堤防の崩落、電気・水道などのライフラインが寸断された大災害でした。

涌谷町消防団は、震災当日、担当地域内を夜通し巡回し、家屋内に残っている住民の安否や通り抜けが危険な道路の確認・報告を災害対策本部に行いました。その後も、避難所への応援として飲料水や物資の手配に加え、電気が復旧する際に、通電火災が起こらないよう、防火広報などに尽力しました。

あの災害から住民の皆さんの生命と財産を守ることができたのは、涌谷町消防団が地域防災の要としての役割を果たしたからです。今後の高齢化社会で、大災害が発生した場合、自助(住民自ら自分の身を守る)や公助(役場や消防署が住民の身を守る)だけでは限界があります。地域に根差した消防団だからこそできる共助(住民同士が支えあい身を守る)が必要不可欠です。

団員数の減少が深刻化する中で、東日本大震災から11年が経ち、当

時の記憶も薄れつつあります。防災意識の高揚だけではなく、いつか再び発生する大災害への対応力を再構築しなければなりません。自らが暮らす地域を守る勇者として、子どもたちや高齢者が安全に暮らせる涌谷町の安心な未来を築くために、若い皆さんの力をお貸しください。

【消防団にかかわる問い合わせ先】

涌谷町総務課防災交通班

☎ 43-2116

新規入団については、お住まいの地域を担当する消防団の分団長・班長に、お問い合わせください。



消防団に敬礼！

自らの町は自ら守り、
安全・安心な町の未来を築く。



宮城県重要無形民俗文化財

篔峯寺の正月行事

のの だけ は く さ ん さ い 篔岳白山祭

穏やかな一年で、稲作は上作
ぬくもりを感じる日が差す
穏やかな気候で迎えた令和4
年の白山祭「御弓神事」。

古来から農業が盛んであつた大崎耕土において、五穀豊穡の神・白山大権現を祀る篔岳山の篔峯寺で600年以上の歴史ある伝統の正月行事が白山祭です。そのクライマックスとも言えるのが「御弓神事」で、毎年1月第4日曜日に、華やかな衣装を身に着けた2人のお稚児さんが、篔峯寺白山堂の前で、篔峯寺の宿坊の住職に介添えしてもらいながら、1人6本ずつ合計12本の矢を鬼と書かれた的をめぐり、1人6本ずつ合計12本を射、その年の天候を占う神事です。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、2年連続で関係者のみでの実施となり、観音堂での御神酒やおサシグシ(焼き豆腐とごぼうを串に刺したもの)のおふるまいや各宿坊ごとに提供される精進料理のおもてなしは行われませんでした。

今回お稚児さんを務めたのは、大和田宗佑くん(5歳・篔岳区・南谷)と村上律人くん(3歳・太田区・北谷)の2

人です。大和田宗佑くんは、篔峯寺の宿坊・窪之坊の子で、久しぶりに宿坊出自のお稚児さんとなりました。

お稚児さんが放った12本の矢は、9本が的中。「2月・3月は下に外れたが地震などの天変地異の心配はなく、同じく外れた5月も風が心配されるが、5月に台風ということもないであろう。出穂にかかわる7月・8月・9月は的に当たったので、稲作は上作と考えられる。酷暑ではない夏らしい夏となり、厳冬ではない冬らしい冬という順当な一年になると思われる。また、この占いに直接関係はないが、新型コロナウイルス感染症の早期終息も願う」と松本坊住職の坊城延溟氏は占いの結果を示しました。

順当な一年になるといふ占いの結果をもたらした2人のお稚児さんは、「御弓神事」の後、お守り役の父親に背負われながら、「手が冷たくて的に当たるのが難しかった」「大和田宗佑くん、「的に4本当てられて楽しかった」「村上律人くん」とあどけない笑顔を浮かべて感想を話していました。



⑤



②



④



③



⑦



⑨



⑧



⑥

《写真解説》

①お稚児さんと住職だけではなく、その場に集まった観衆が矢の行方を見守る②二手に分かれて白山堂前へ③御弓神事を前にお守り役の父親に身だしなみを整えてもらう④「籠宮」と書かれた石碑にオシトギ(餅のようなもの)を放る⑤介添え役の住職とともに鋭い視線で的を狙う⑥白山妙理大権現がかけられた観音堂内で最後の読経⑦五穀豊穡の願いととも到的にまっすぐ飛び矢⑧境内に響く御弓神事の終了の梵鐘の音⑨大役を終え安堵の表情



これからもお元気で 満百歳おめでとうございます

1月23日(日)に、岸ヶ森区の佐藤ちよさんが百歳の誕生日を迎えました。自宅で満百歳をお祝いするとともに、敬老祝い金を贈呈しました。

好き嫌いがなく何でも食べる佐藤さん、刺身が好きで特にまぐろが大好きとのことです。普段はミシンを使ってのパッチワークや折り紙で楽しんでいるそうです。

どうぞこれからもお体に十分気をつけて、ますます長寿でありますようお祈りしております。



より魅力あふれる大崎地域を目指して 大崎定住自立圏形成に関する協定を締結

1月27日(木)に、大崎市役所三本木庁舎で、第3次大崎定住自立圏形成にかかわる協定の締結式が行われました。

この協定は、定住自立圏の中心市宣言をした大崎市と宣言に賛同した周辺4町が、連携と協力で都市機能を整備するとともに生活機能を確保し、全体の活性化を図り、魅力あふれる定住自立圏を形成することを目的としています。医療や産業、防災、デジタル化、人材育成など、行政の垣根を超えた連携を図り、住みよい大崎地域を創造します。



きんぽす公式ホームページはこちらから

みちのくの金をテーマにしたポスターコンテスト きんぽすのグランプリが決定しました

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会が一般社団法人海洋連盟と連携して実施したポスターコンテスト「きんぽす」のグランプリが決定しました。

一般の部では大船渡市の村上真さん、子どもの部では涌谷町の佐々木陽向くんがそれぞれグランプリに選ばれました。グランプリ作品は、今後、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の公式PRポスターとして使用していきます。詳細は、「きんぽす」公式ホームページをご覧ください。



有事への備えとしての訓練 原子力防災訓練を実施しました

2月10日(木)から2月12日(土)までの3日間、宮城県地域防災計画に基づいた原子力災害対策としての原子力防災訓練を国の原子力総合防災訓練と一体で実施しました。

2月12日(土)には、涌谷スタジアムにおいて、石巻市渡波地区から住民が避難してきたことを想定し、バスなどの車両や避難者の放射性物質汚染検査が行われました。なお、訓練は、新型コロナウイルス感染症対策を反映し実施されました。



涌谷町のおいしいものを仙台市にお届け 元気くん市場仙台南店で物産展を開催

1月22日(土)23日(日)の2日間、仙台市太白区茂庭にあるJA新みやぎ管内の生鮮食品が一堂に会する元気くん市場仙台南店に、涌谷町として出店しました。

涌谷町の郷土食・おぼろ豆腐や銘菓のかりんとう、漬け物などを販売した他、涌谷町産のもち米と日本遺産で連携する南三陸町産のタコを使ったタコ飯のおふるまいを実施しました。なお、3月以降、定期的に出店する予定で、今後の詳細は、涌谷町ホームページなどで告知します。



こうつうルールをまもります 今年度最後のこじかクラブ交通教室

2月上旬、涌谷町内の幼稚園・こども園などで、今年度最後のこじかクラブ交通教室が開かれ、一寸法師をモチーフにした手作りの紙芝居で1年間学んできた交通ルールをおさらいしました。

また、来年度から小学校に進学する年長児の皆さんに、こじかクラブ交通教室の修了証書が授与され、今後の小学校生活でも交通ルールを守ることを約束しました。



子育て支援サークル・おひさまスマイル活動報告 ボランティア功労団体として表彰

この度、第67回宮城県社会福祉大会で、ボランティア功労団体として表彰いただきました。おひさまスマイルは、今年度で活動11年となりました。

これまでスタッフとして関わってくださった皆さま、各講座が楽しくなる時間を作ってくださった講師の皆さま、活動を楽しみに参加してくださった皆さま、活動を支えてくれている地域や行政の方々…改めまして、ありがとうございます。今後も子育てライフが楽しくなるような企画をし、皆さんと一緒にスタッフも楽しんでいきたいと思っています。

遠藤 稔雄 町長コラム

聞く力

岸田総理は総裁選挙や先の衆議院議員選挙で「聞く力」を自分の持ち味として掲げ、国民に支持を訴えておられた。政治に携わる人にとっては話を聞く力は大切な。

しかし、これが簡単そうでなかなか難しい。誰にも自分なりの思いがあり、自分なりの形もある。人の話を真摯に聞くには、この自分の思いや形を瞬時に捨てる度量がなければいけないものではない。どんな形にでも合わせられる水のようにになりたい。

《遠藤 稔雄 町長の公務(1月16日～2月15日)》

- 1月16日(日) 涌谷町消防団出初め式 (涌谷公民館)
- 1月20日(木) 西地区熱回収施設整備・運営事業
建設工事「火入れ式」 (大崎市)
- 1月24日(月) 涌谷町議会定例会第2回1月会議(役場)
- 1月27日(木) 大崎定住自立圏形成協定合同調印式
(大崎市)
- 2月 9日(水) 涌谷町議会定例会2月会議 (役場)
- 2月10日(木) 自治功労表彰式・町村長会議(仙台市)
- 2月11日(金) 原子力防災訓練 (役場)
- 2月12日(土) 原子力防災訓練 (涌谷スタジアム)